

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立義務教育学校八束学園前期課程

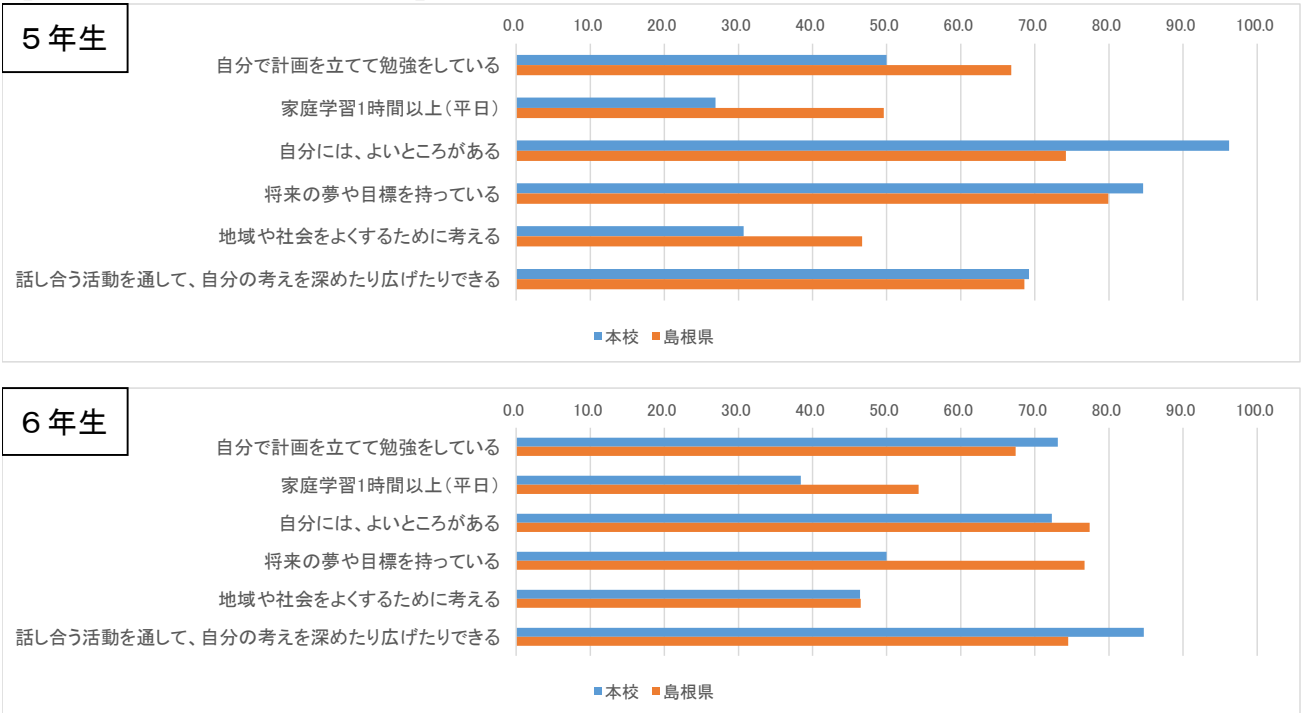
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
国語	○話し手の意図を捉え、目的に応じて答えることができる学園生の割合が高い。 ○情報を読み取って、条件に合う文章を書くことができる学園生の割合が高い。 ●2つの段落に分けて書くこと、資料から読み取って書くこと、自分の考えを書くことなどの「複数の条件を満たして」書くことができていない学園生の割合が高い。 ●漢字の由来や修飾語についての定着が十分でない。	○自分の考えや伝えたいことを文章に表す問題、学年相当の漢字を読む問題については目標値を上回っている。 ○無回答率が県平均や全国平均と比較して低い。 ●問題の意味を理解しないまま解答している学園生の割合が高く、正しく読み取る力の定着が十分とは言えない。 ●漢字の書くこと、和語・漢語・外来語や接続詞などの言葉の知識に関する問題での正答率が低い。 ●条件作文の正答率が低い。指定された条件を使えていない学園生が多く、条件の意味を理解できていない可能性がある。
算数	○基本的な四則計算の正答率が高い。（除法よりも乗法の方がよく身に付いている。） ○整数の性質や平均の意味については、概ね理解できている。 ●文章題における、既習の乗法・除法のつまずきが多い。 ●生活場面に即した活用問題に課題がある。 ●題意を捉える部分でつまずきがある。	○基本的な四則計算の正答率が高い。 ○拡大図と縮図の関係を理解できている。 ○比と比の値の関係を理解できている。 ●示されたデータの特徴をもとに思考することに課題がある。 ●代表値としての「最頻値」や「平均値」といった言葉の理解が十分ではない。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	5年生	6年生
意識	○自分自身のよさについて肯定的に受け止めている学園生が多く、互いを認め合える集団になっていると考えられる。 ○将来の夢や目標を自分や他者から認められやすい環境にいると考えられる。 ●学習を進める上での目標が明確ではないので、計画を立てないまま家庭学習に取り組んでいると考えられる。 ●学習の目標が明確ではないので、家庭学習では宿題を終わらせるだけになっている可能性が考えられる。	○自分で計画を立てて学習することができている。後期課程の準備として実施している定期テストが効果的だといえる。 ○話し合いを通して考えを深められるという認識がある。 ●家庭学習の時間が県平均より低く、個人の学習の目標設定の仕方については課題がある。 ●地域や社会について考えることが県平均同等であることに比して、将来の夢をもっている割合が低い。学習での苦手意識があり、将来の夢や目標設定が低くなっていると考えられる。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】

5年生

26

名

6年生

26

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)